

## 0. [まくら]

オリコン→Babymetal→迦陵頻→信西古楽図→楽（うたまい）→μουσική→近代的芸術観と未発達のメディア→東海林太郎→散楽→ジョングルール→1920年頃のチャリティーイベント

## 1. 『〈クラシック〉と〈ポピュラー〉』（2014）とその後

- ・18世紀まで「クラシック音楽」「ポピュラー音楽」という区別はなかった。

例:モーツァルトのプラハ体験：《フィガロの結婚》が大流行、人々はその音楽で踊っていた

「僕はそれを見てとっても嬉しかった。人々がみんな、正真正銘のコントルダンスやドイツ舞曲に変身した僕の《フィガロ》の音楽で、心からうれしそうに飛び跳ねているんだもの。ここでは話題は《フィガロ》のことばかり。弾くのも吹くのも歌うのも、口笛も《フィガロ》。観に行くオペラは《フィガロ》だけ、永遠に《フィガロ》。確かに僕にとって大変な名誉だ。」

(1787年1月15日ジャカン宛)

(民謡などは別にして) 機会ごとに新しい音楽を演奏するのが普通だった。

- ・19世紀初頭に「古くても価値がある」と認められる少数の作曲家・作品が「古典」とみなされ、作曲者の死後も演奏されるようになった。

- ・1850年代のイギリスで「理解しやすく」「新しく」「民衆的」な音楽が「ポピュラー音楽」と総称され、ミュージック・ホールを中心にひとつのカテゴリーを形成した。

- ・“popular music”カテゴリー成立のきっかけ

W. Chappell の *Popular Music of the Olden Time* (1856) : この段階では古い音楽中心

- ・「理解しやすく」「新しく」「民衆的」な“popular music”の確立

ミュージック・ホールの流行：

飲んだり食ったりしながら安い値段で音楽やダンスの舞台を楽しむ

批判もあった：

「イギリスの音楽が今ほど墮落した時代はない。嘘だと思えば、いま流行りのミュージック・ホールに行ってみるがよい。聞こえてくるのは、騒々しい叫びとコミック・ソングばかりだ。」

(*Musical World* 誌 1862年9月13日号の投書)

- ・「ポピュラー音楽」の中から「古くなくても価値がある」とみなされたものは「古典」の仲間に追加され、「クラシック音楽」というカテゴリーを形成した。

例：オッフェンバックのオペレッタ、ヨハン・シュトラウスのワルツなど

- ・1920年ごろにジャズが台頭し、「クラシック音楽」と「ポピュラー音楽」の様式上の乖離が強まった

- ・21世紀になると「ポピュラー音楽」は膨張してもはやカテゴリーとしての意味を失い、一方「クラシック音楽」は縮小して無数に並ぶサブカテゴリーの一つとなる

こうした理解は歴史のアウトラインとして妥当と思われるが、その内実については分かっていないことも多い。

- ・西洋音楽史学は「芸術」音楽を重視し、大衆的音楽文化は対象となりにくかった
- ・ポピュラー音楽研究はマスメディア化した音楽や反体制的音楽を重視した  
→19世紀後半から20世紀初頭の初期ポピュラー音楽文化への理解が遅れている

## 2 ウィリー・ホールの芸はどこから来たか

### Willie Hall (Wilbur Hall, 1894-1983)

1924-30 にトロンボーン奏者としてポール・ホワイトマン楽団に在籍。  
1930年の映画 *King of Jazz* ではつま先の長い靴を履いて体を傾けながら、  
ヴァイオリンの曲弾きと 自転車用空気入れの演奏も披露  
ホワイトマン楽団以前はヴォードヴィルで活動したらしいが詳細は不明  
ウィリー・ホールの芸はヴォードヴィル (ミュージック・ホール) 由来  
「つま先の長い靴」のものは Little Tich の Big-Boot Dance



### Little Tich (Harry Relph, 1867-1928)

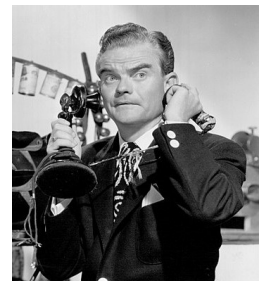
イギリス生まれ。子供のころからミュージック・ホールで活動。背が低かったので  
Little Tich を名乗り、20歳で Big-Boot Dance を考案、人気を博す。  
ロンドンのほかアメリカやフランスでも活躍。  
1900年パリ万博の音声付映像が存在する。



Willie Hall はのちに Spike Jones のテレビショーに出演(1957年6月4日)

### Spike Jones (1911-1965)

アメリカの打楽器奏者、バンドリーダー。1940年頃にシティ・スリッカーズを  
結成、コミカルなアレンジと演奏で人気を博す。コンサート・ツアーのほか  
レコード、ラジオ、テレビでも活躍。日本のバンドにも影響を与えた。  
テレビの Spike Jones Show には music hall - vaudeville 的な要素が見られる。



## 3 Minka とグルペット変奏の伝統

### Spike Jones の *Minka*

1946年初録音、テレビでは1956年に披露  
自由な序奏、主題と4つの変奏。  
主題は有名なロシア民謡。ベートーヴェンも変奏曲を作っている  
(op.107, 1818)



### Harry James (1916-1983) の *Concerto for Trumpet* (1939)

全5部分(レチタティーヴォ風序奏、「くまん蜂の飛行」風の部分、「ジャン  
グルサウンド」的部分、Minkaの主題と変奏、レチタティーヴォ風コーダ)  
伝統的「協奏曲」ではないが、「クラシック的」要素がたくさん



### Harry の息子の証言

父が言うには、10 代の頃から《くまんばちの飛行》を吹いてきた。《コンチェルト》のアイデアが浮かんだのは、何人かのミュージシャンたちに「《くまんばちの飛行》なんて簡単さ、後ろからだって上下さかさまにだって吹ける」と話した時だった。そう、実質的に《コンチェルト》の第1部はまさに《くまんばち》を上下ひっくり返したものだ。父は中間部が《シング・シング・シング》だということにもうなずいた。そして最後のコーラスは、ハーバート・L・クラーク編曲の《ヴェニスの謝肉祭》に基づいている。

(Chuck Par-Due: *Harry James-Trumpet Icon*, Seattle 2020, p.33)

### Spike Jones の Minka 第4変奏と Harry James の変奏はそっくり



このタイプの変奏（「グルペット変奏」と呼ぶ）は金管楽器では一般的

元祖はアーバン（アルバン）の金管教本(1864)

### Jule Levi (1838-1903) の *Grand Russian Fantasia* (ca.1875)

Levi はイギリス出身のコルネット奏者。ロンドンのクリスタルパレスなどで活動したのち渡米、コニーアイランドの遊園地やギルモア・バンドで活躍

→ music hall や vaudeville と文化的に近い



全4部分（序奏、Andante（ロシア民謡「赤いサラファン」）、

Minkaの主題と2つのグルペット変奏、フィナーレ（ロシア国歌）

Minkaによるグルペット変奏の系譜は J. Levy(1875) → H. James(1939) → S. Jones(1946)

だが「グルペット変奏」はアルバン(1864)に、Minkaによる変奏はベートーヴェン(1818)にまで遡れる。

## 4. まとめ

- ・ 19世紀後半から20世紀初頭の初期ポピュラー音楽、とくにミュージック・ホールやヴォードヴィルといった大衆的エンターテインメントが音楽史に果たした貢献は大きい。
- ・ 初期ポピュラー音楽を介してクラシックの伝統がジャズなどにも流れ込んでいる。
- ・ しかし未発達なメディア状況によってその全体像に触れることは困難。
- ・ 視覚的資料・聴覚的資料・文字資料を収集し、初期ポピュラー音楽の実態を知ることが必要。

#### [まくら]に関わる吉成の仕事

- 「音楽のマルチメディア性」『音楽研究所年報』第12集（国立音楽大学音楽研究所、1998、pp.115-123）  
「音楽」『「文化系」学生のレポート・卒論術』（渡辺潤、宮入恭平 編著）パート 3-1（青弓社、2013）

#### 本編に関わる吉成の仕事

- 『〈クラシック〉と〈ポピュラー〉——公開演奏会と近代音楽文化の成立』  
(アルテス・パブリッシング、2014)  
「増殖する『クラシック』——クラシックとポピュラーのその後」  
『アルテス』2014年4月号（アルテス・パブリッシング、2014、pp.84-87）  
『〈クラシック〉と〈ポピュラー〉』の今」  
JASPM28 シンポジウム「クラシック音楽におけるポピュラリティの諸相」における口頭発表  
(日本ポピュラー音楽学会、2018年12月3日立教大学)  
「ミュージック・ホールとTVショーをつなぐもの  
——初期ポピュラー音楽の上演における身体的・視覚的要素——」  
『国立音楽大学研究紀要』第55号(国立音楽大学、2021、pp.131-137)  
『「クラシック」と「ポピュラー」をつなぐもの」  
『国立音楽大学研究紀要』第56号(国立音楽大学、2022 掲載予定)